

5. 予算および主要課題

水産試験場

事業名	平成12年度予算(当初)
水産試験場運営費	34,633
試験研究調査費	23,133
(湖産アユ総合対策調査研究費)	(6,834)
(温水性魚類の増養殖対策調査研究費)	(6,202)
(水産資源と利用に関する調査研究費)	(3,156)
(淡水真珠対策研究費)	(1,190)
(増養殖技術研究費)	(3,297)
(漁況予報調査研究費)	(1,138)
(漁場環境調査研究費)	(1,316)
水産技術普及指導費	200
人件費	183,406
計	241,372千円

水産課計上分

事業名	平成12年度予算(当初)
栽培漁業総合推進対策費	5,957
(複合的資源管理型漁業促進対策事業費)	(4,361)
(シジミ栽培漁業事業化推進事業費)	(1,596)
沿岸漁業保全整備事業費	1,392
漁場環境保全対策費	1,142
養殖漁業振興事業費	2,140
(養殖魚類保健対策事業費)	
水産資源保護増殖対策費	2,133
計	12,764千円

水政課計上分

事業名	平成12年度予算(補正)
水産渇水対策事業費	1,600
計	1,600千円

平成12年度主要事業一覧表

事業名	事業概要
湖産アユの質的保全に関する総合調査研究	琵琶湖産アユ苗の河川放流効果をより高めるための技術開発を実施する。また、仔稚魚期の生態や漁獲アユの特性を把握する。 1. 優良種苗育成技術開発：①アユ種苗仕立て試験 ②アユ種苗放流試験 2. アユの初期成育機構の解明：①成長段階別分布調査 ②生息環境調査 ③漁獲アユの特性調査
アユの重要疾病予防対策試験	アユ養殖の魚病対策として、効果的な治療方法の研究やワクチン、免疫賦活剤等による予防対策技術の確立を目指す。 1. 実態調査 2. 冷水病対策試験 3. シュードモナス病対策試験
温水性魚類沿岸帯機能の回復保全研究	ニゴロブナ・ホンモロコ等の魚類の再生産の場として重要な沿岸帯は、著しく荒廃し、琵琶湖の生態系で大きな役割を担っている魚貝類が大巾に減少している。そこで沿岸帯の機能を総合的に回復保全する手法の開発調査研究を進める。 1. ヨシ帯周辺水域の生態系調査 2. 沿岸帯の機能評価 3. 多種魚介類添加による機能修復技術開発 4. ホンモロコ減耗要因の解明
イサザ等特産種資源対策研究	琵琶湖特産種等の資源動向を把握するとともに、近年、大きく増大したブルーギル資源の抑制対策研究を実施する。 1. イサザの再生産助長技術の確立 2. ブルーギル・ワカサギ等外来種とホンモロコ・ワタカ等特産種の動向調査
琵琶湖海域複合的資源管理型漁業促進対策事業	ニゴロブナやセタシジミ等の資源を効果的かつ継続的に利用していくための資源管理技術の開発を進める。 1. ニゴロブナ等の資源量推定 2. セタシジミ資源動態等の把握
セタシジミ栽培漁業事業化推進事業	シジミ漁場の増大ならびに漁場を有効利用するための技術開発を進める。 1. 漁場の環境調査と耕耘および水草除去効果の調査 2. 種苗放流効果の調査 3. 中間育成技術の検討
淡水真珠対策研究	淡水真珠産業の回復を図るため、真珠生産に適合する優良な母貝を作出するとともに、優良形質を固定する技術を確立する。 1. 優良母貝の作出技術の開発試験 2. 在来イケチョウガイの保護・増殖
バイオテクノロジー応用技術開発研究	バイオテクノロジー技術を応用し、ニゴロブナ、ホンモロコ等の全雌あるいは高成長等の優良形質の固定および新品種の作出と評価を行う。 1. ニゴロブナの高成長品種等の作出研究 2. ホンモロコの安定的な全雌生産術の開発
ブルーギルの利用に関する研究	近年、大量繁殖しているブルーギルの資源量抑制を図るため加工方法を検討する。 1. ブルーギルの新規加工品の試作 2. ブルーギルの成分分析(無機質、ビタミン) 3. ブルーギル加工品の品質保持期限の把握 4. 加工技術の普及